

共通に使用される擬似言語の記述形式

擬似言語を使用した問題では、各問題文中に注記がない限り、次の記述形式が適用されているものとする。

〔宣言、注釈及び処理〕

記述形式		説明
○		手続、変数などの名前、型などを宣言する。
/* 文 */		文に注釈を記述する。
処 理	・変数 ← 式	変数に式の値を代入する。
	・手続( 引数, … )	手続を呼び出し、引数を受け渡す。
	↑ 条件式 ↓ 処理	単岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理を実行する。
	↑ 条件式 ↓ 処理 1 ↓ 処理 2	双岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理 1 を実行し、偽のときは処理 2 を実行する。
	■ 条件式 ↓ 処理 ■	前判定繰返し処理を示す。 条件式が真の間、処理を繰り返し実行する。
	■ 処理 ■ 条件式	後判定繰返し処理を示す。 処理を実行し、条件式が真の間、処理を繰り返し実行する。
	■ 変数: 初期値, 条件式, 増分 ↓ 処理 ■	繰返し処理を示す。 開始時点で変数に初期値（式で与えられる）が格納され、条件式が真の間、処理を繰り返す。また、繰り返すごとに、変数に増分（式で与えられる）を加える。

〔演算子と優先順位〕

演算の種類	演算子	優先順位
単項演算	+, −, not	高 ↑  ↓ 低
乗除演算	×, ÷, %	
加減演算	+, −	
関係演算	>, <, ≥, ≤, =, ≠	
論理積	and	
論理和	or	

注記 整数同士の除算では、整数の商を結果として返す。%演算子は、剰余算を表す。

〔論理型の定数〕

true, false